

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市八本松児童館	
2 指定管理者	特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘	
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和5年度 25,267人(前年度比 116.7%) ・令和4年度 21,647人 ・令和3年度 16,592人	
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 47,650千円 (45,056千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営委員会、児童クラブ保護者懇談会を実施。	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	リーフレットや児童館だより、初めての利用者を対象とした冊子の発行、保護者からの要望を受けてSNSをはじめ、ブログの更新や利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。 さらに地域に向けて取り組んだ「どんぐりマーケット」では、子ども達が企画運営に参加しており、子ども達のやりたいことを大切に支援している。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。 また、中高生世代を対象に遊戯室を専用で利用できる時間を定めるだけでなく、遊戯室の一面に専用のスペースと物品を確保するなど、中高生世代が利用しやすい環境を整えている。中学生の利用が増えたことを受けて、教員が毎月来館して情報共有を行う等、中学校との連携を強化しながら育成支援に取り組んでいる。	20/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人みやぎ・せんだい子どもの丘）による自己評価》
<p>仙台市の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針に沿い【地域でつながる・あそびでつながる児童館】を念頭に置いて、利用者一人ひとりに寄り添った居場所づくりに取り組んだ。</p> <p><健全育成事業>すべての子どもにとって身近で安心できる居場所づくりを実施。隣接する八本松公園に遊びに来る子どもたちの安心スポットとしても児童館が存在し小学生だけでなく、中高生が自然に出入りする姿も多く見られ、中高生世代の居場所として設定しているエイトベースが浸透してきている。初めて利用する乳幼児親子が増え、安心して我が子を遊ばせることができる環境づくりを作ってきた。</p> <p><子育て支援事業>3年目の妊娠期支援事業はぐはぐは、奇数月の金曜日の夜と土曜日午後に区保健センターの協力のもと、育児体験や助産師講話など年間8回開催した。出産後にベビーマッサージで参加した親子もおり、継続した子育て支援ができています。</p> <p><地域交流事業>毎年大人気の“どんぐりマーケット”は4回目を実施。開催3日間で過去最高の1,010人の来場者数となった。自ら商品を作って販売する方や、近隣保育園では、年長児が育てた野菜の販売もあり大好評であった。また、八本松市民センターと共催した“あそぼうさい”では、多賀城高校や郡山中学校の生徒にも協力してもらい、子どもは遊びながら、大人に対して防災意識を深められるよう関わることができた。また、児童館で作成した防災マップも配布することができ、とても好評であった。</p> <p><放課後健全育成事業>一人ひとりの良いところを見つけ、職員間や保護者に積極的に伝えるよう”にやりホッと”を日誌に記録している。また、異年齢の子どもたちが関わり体験ができるよう、職員が制作ワークショップを開催したり運動遊びにも取り組んだ。「児童クラブが大好き」と保護者に話す子どもも多く、安心して安全な放課後の居場所づくりに寄与することができた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、小学校3年生以上を対象に子どもスタッフを募集し、こども参画型の児童館運営に努めている。令和5年度は隣接する保育園で「出前児童館」として小学生が訪問し読み聞かせ等の交流を再開した。「∞ベース」をきっかけにして多くの中高生世代の定期的な利用があり、小学生とミニバスケットや外遊びを行ったり中学生が読み聞かせをするなど、日常的な交流が見られ、仲間作りの場、地域における子どもの居場所として定着していることが伺われる。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、プレママ・パパ対象の「はぐはぐ」を午後や夜に実施したり、「よちよちパーク」ではベビーマッサージやベビータンゴを毎月実施するなど、保護者のニーズを捉え工夫して行事を開催し好評を得ている。「あそびまショータイム」で行っていた「どこでも児童館」を令和5年度から行事の一つに変更し、近隣の3か所の公園へ出かけて児童館の遊びを提供するなど、利用しやすい環境作りや地域の子育て家庭に対する児童館の認知度の向上を図り利用者の増加に努めており、成果として表れている。</p> <p>地域交流推進事業においては、木の実を通貨にして買い物をする「どんぐりマーケット」を開催した。4年目となる令和5年度は、近隣の保育園児が育てた野菜を出品したり、地域の方や中学生が総合学習の一環としてクラス毎に出店するなど、地域の中のイベントとして定着してきている。児童館が積極的に地域と関わり地域の方が応えてくれる関係性が培われており、地域の交流拠点としての役割を果たしている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、保護者や小中学校の協力を得て子どもアンケートを実施し、意見を聴取して遊具や図書を購入している。また、静かに勉強できるスペースが欲しいという児童の意見から、新たに学習スペースを確保した。日常の中で子どもが意見を出せる場の提供と共にその意見を児童館の環境や生活に反映させ、児童が主体的に児童館の運営に参画できる機会を保障し主体性や社会性を育てている。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課